

## 恵那の旅

平成 27 年 11 月 2 日、伊勢青色申告会女性部の懇親旅行は雨で始まった。

参加申し込みが少なく一般の女性方とバスが相乗りとなったが、旅の楽しみを共有する同士雨でも顔は明るい。三交松阪営業所と関のドライブインで参加者が増えたようである。一日中小雨が降っていたがトイレ休憩に傘なしで歩ける程度だった。隣のシート同士お喋りし華やか。バスの外へ目をやると湾岸道路を走っているのか長島スパークランドの観覧車が見える。少し走ったら前方の窓に縦、横、斜めに入り込んだ天空の高速道が目に入って来る。どこへどう通っていくのだろう。アニメによく出てくる風景、東京の場面はよくテレビで見るが名古屋にもあったんだ！！お喋りも途切れて少しウトウトしていたらガイドさんのマイクの声。

東名阪はここまでです。今から中央道高速へ入ります。恵那方面の旅、間もなく恵那山が見えてきます。恵那山は船をひっくり返したような山なのですぐわかります。恵那山の向こうにはアルプス山脈も見えて参ります。昼食を恵那の山菜園でとり、午後の岩村城下町を散策しますがその前に宝探しもありますので楽しみにして下さい。岩村城は織田信長にも関係のある日本三代高山にあるお城で大和の高取城、四国の松山城と有名です。岩村城は今、石垣のみで徒歩で登るしかありません。高さ 700 メートルの所に建っていたそうです。岩村城は城主が若くして亡くなり女城主の時もあり、その方は織田信長のおばさんで理不尽な死を遂げたというヒロインでもあります、との説明。

雨は小降りになり窓の外に見える風景は緑の中に黄色の木、少しの紅が入って優しい秋の色でした。午前 11 時山菜園に着き、少し休憩して又バスに乗りました。宝を探しに山に向かった。2 台のバスが山裾に着いた。皆さん雨合羽姿、係りの人の案内で山に入りました。私は欲を出し人のいない所、赤松の下を求めて山の中腹まで駆け登った。木の根元、木の葉もなくお宝なんて一本も見つからない。私は落ちていた小さな松ぼっくりを 5 個拾ってポケットに入れ山を降りた。道路では皆さんがワイワイ手に白い袋を提げて一本採った！二本採った！と聞き悔しくなり、どこで採ったのと聞くと誰でも採せる草むらの中に置いたんですと案内の方が言っていたとか。採れなかった方にもお土産(松茸三本入り)が頂けました。事務局の里奈さんからこれ採ったのでどうぞと、なめ茸のようなものを 7 本頂いた。細い小さな茸で家に帰って汁にしたら美味しいやろ。

12 時頃山菜園に戻りました。何と大きなレストラン、100 人単位を受け入れるそうだ。横に長いテーブルに腰掛け椅子、有難い。すでにメンバーの人たちが席に着き鍋には湯気が立っている。すき鍋には大きな牛肉が三枚、うどん、松茸、シラタキ、白菜、ネギ、椎茸、かまぼこ、横に土瓶蒸しもある。サラダに漬物、松茸ごはんはお替

り自由。小井にて2杯食べちゃった。今までの旅行で一番のもてなしだと思いました。昼食後、少し歩いて栗きんとんで有名な川上屋へ案内された。中津川にもある支店だそう。持病のめまいでお世話になっている医師、看護師さんにお土産にしよう。20個あればいいかな。栗きんとん、五年前より小さくなって高くなったなと思っちゃう。加藤さん、西岡さんが並んでいる列に加わった。栗入り洋菓子の様だ。バスに乗って大きなそれを頬張った。

その後バスに乗り岩村城下町へ。町の世古を曲がり、青色申告会女性部の垂れ幕を持って写真を撮りました。傘を杖代わりに歩く私を皆さん気遣って下さいます。町の本通り白壁の似合う綺麗な町。原色の赤、黄などの看板はない。木の緑、壁は白か黒、他の色は茶色のみ。築300年、江戸時代から明治時代にかけて建てられた商家の建物。今も人が住んでいる。菓子の老舗へ入った。芋ようかんが有名らしい。お茶も振舞われた。向かい側の酒店へも入った。間口が狭いが荷物運びのトロッコのレールが奥へ奥へ。甘酸っぱい匂い。甘酒を頂く、美味しい。甘酒は病院の点滴に次ぐ栄養剤との話について財布の紐がゆるむ。昔は間口で税が決まったそう。隣の大きな商家跡、当時からもうガラス戸があったんだ。長い廊下に当時多くの奥女中さんが歩いたことが想像される。刀を下げた袴姿の武士も出入りしていたか、映画を見ているよう。現在、重要伝統的建物群保存地区に指定されている。小さな八百屋を探した。その土地にしかない山菜などがなく見つからなかった。民家の庭に真っ赤な紅葉、点々となって去り難かった。

帰りのドライブインで買った笹ずし、夫も娘もすごく美味しいと言っていました。

娘からの私の栗きんとんはないの？の言葉に冷や汗。一番親孝行してくれる娘に何でケチってしまったんだろう。

びっくりポンな話をひとつ。

宝の代わりに拾ってきた小さな松ぼっくり。夫のベッドの枕元へ並べておいた。翌朝アレッ！？松ぼっくり、パツとはじけて花開き松笠になっている。アンタら生きとったんかと思わず声が出た。暖房の部屋で目覚めたのか、落ちても生きているのか、宝が採れなかった私を慰めてくれたかこんな事ってあるんだ。

旅は楽しかったし元気が出ました。来年もぜひ行きたい。堅い勉強ばかりじゃなくこんな行事も大歓迎。

山本 春子